応用心理測定研究会　第7回

過去の母子間の葛藤経験と現在の母ー青年関係の関連について

太成学院大学
小高　恵

問　題

　青年期は親や年長者との間で葛藤が生じやすくなる時期である。この時期，青年は自己に関心を強く向けるようになり，自己の独自性，自律性の欲求が高まり，自分のことは自身で決定したいと考えるようになる。このような心理的自立の過程で葛藤が生じ，反抗が生じるとされてきた。

○反抗の形態

- 親から離れる反抗
  - 親を無視するまたは親と話をしない
  - 親を避けて部屋に閉じこもる
  - 親に会いたくなくて外出するまたは家出する
- 親に向かう反抗
  - 親に口答えする
  - 親にイライラして物にあたる
  - 親に対して暴力を振るう

Figure1　反抗の形態　（小澤, 1998）

「心の中での抵抗と言ったような内面的な反抗」については捉えられていないという指摘もある（須崎，2015）。

反抗期が無かった認知する者の中には，行動としての反抗期はないが，気持ちとして潜在している場合もある（江上・田中，2013）。

親との実際の交流が増加すると，情緒的関係性が良好になる傾向があり，間接的に反抗感情の生起や反抗行動の表出に影響を与える可能性がある（野村，2014）。

須崎（2008）の研究

目に見える反抗(反抗行動)

心の中での反抗(反抗感情)

野村（2014）の研究

親子の情緒的関係性と親子の実際の交流の程度が反抗的な感情の生起や反抗的行動の表出に与える影響を検討している。

親との実際の交流

↓

情緒的関係性が良好

↓

反抗感情の生起や反抗行動の表出の

親子の葛藤を捉える上で，行動面での反抗だけを取り上げるだけではなく，内面的な反抗，すなわち反抗的感情の側面を含めて捉えていくことも大事である。

反抗は，必然的に現れるのだろうか。
親子の関係性により生じるのでは？

反抗が生じるのは，青年の自律欲求に家族システムが対応できていないのでは？（白井，1997）

分離モデル

組み替えモデル

両親の過保護的養育態度が第二反抗を促進し，両親の養護的養育態度が第二反抗を抑制する（杉山・長谷川，2013）。

➡ 組み替えモデルを支持

仮説モデル

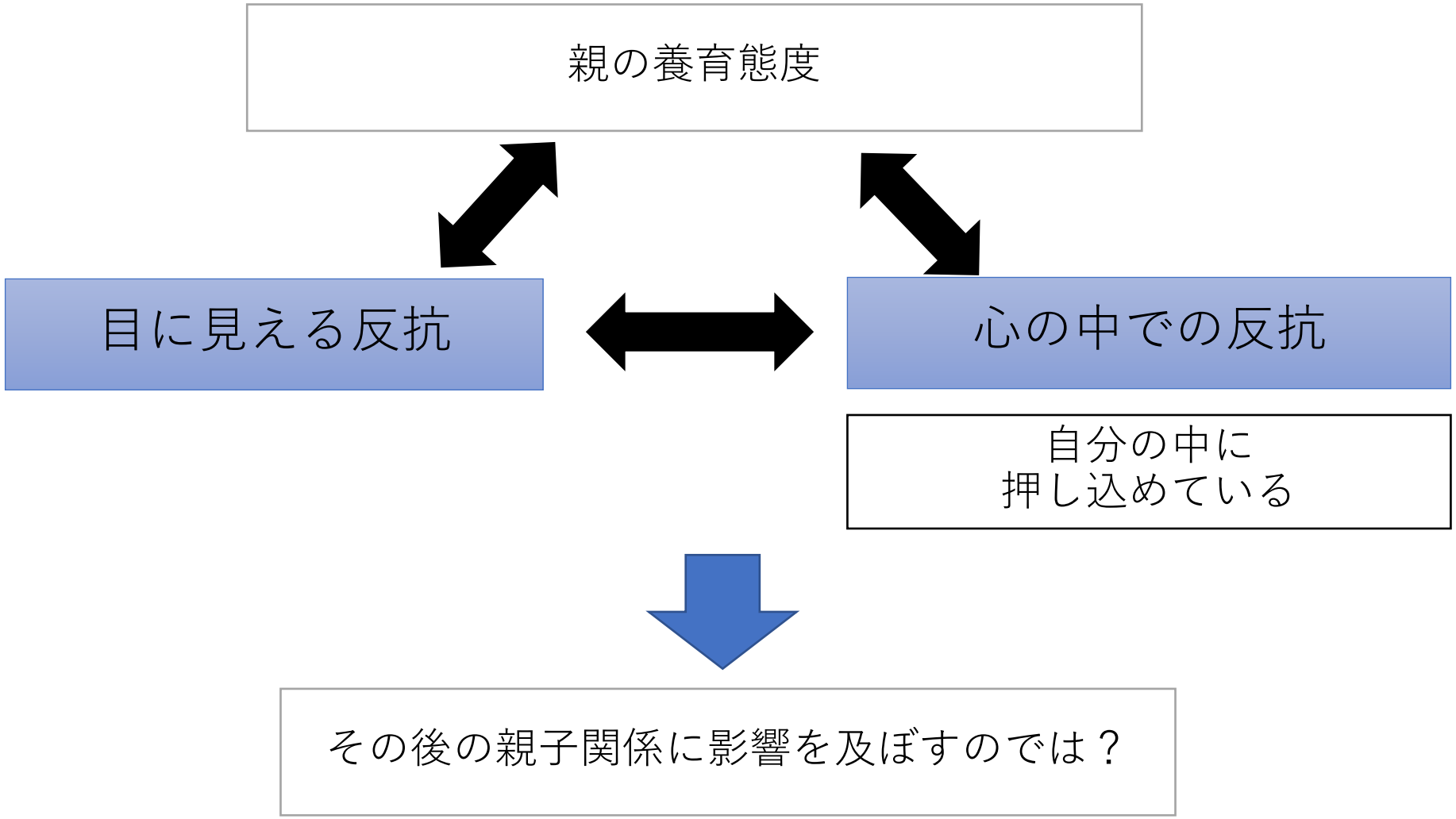

Figure 2　親子の葛藤の仮説モデル

方法

調査対象者：大学生102名（男子34名・女子68名, 平均年齢20.1歳, SD=1.38)である。

調査時期：2018年7月。**倫理的配慮：**授業の休み時間を利用し，アンケート用紙に回答してもらった。その際，個人情報についてはプライバシーを尊重し，関連法規を遵守することを説明し，調査参加に承諾を得た者に回答してもらっている。

測定尺度：①小澤(1998) と須崎(2008)を元に作成した親への反抗に関する項目15項目を用いた。②辻岡・山本（1976），遠山(2005)，藤田・岡本(2009)の親子関係尺度を参考に作成した中学3年生の頃の母の養育態度に関する15項目を用いた。③小高（2000）が作成した親―青年関係尺度，5 尺度（「親からのポジティブな影響」「親との対立」「親への服従」「親との情愛的絆」「一人の人間としての親」）25 項目を用いた。評定はいずれの尺度も「あてはまらない(1点)」～「あてはまる(4点)」の4件法である。

分析手続き：(1)反抗に関する15項目について因子数を2つと定め，主因子法により因子分析を行い，その後プロマックス回転を行った。(2)母の養育態度に関する15項目について，因子数を3つと定め，主因子法により因子分析を行い，その後プロマックス回転を行った。(3)親—青年関係25項目について因子数5つと定め主因子法により因子分析を行い，その後プロマックス回転を行った。（4）上記で得られた因子パターンの結果を元に下位尺度(小包)を構成した。ここでは，得られた因子パターンの小さい項目と大きい項目を組み合わせて，因子パターン値のバランスをとるように構成し（狩野, 2002a, 2002b），中学生の頃の反抗経験と母の養育経験がどのように関連しているのか，またそれらが現在の母－青年関係にどのように関連するかを明らかにするために，上記で作成した下位尺度(小包) を観測変数として用いて，構造方程式モデリング（Structural Equation Modeling：以下，SEM）により分析を行った。十分なレベルの適合度を追求するために修正指数を参考にしてパスを順次増やした。モデルの適合度については，Mulaik（2010）やHu & Bentler(1999)，清水・三保・紺田・青木 (2014) を参考にして，CFI（>.95）, RMSEA（<.05），SRMR(<.08)という適合度指標をモデル採択のための基準とした。なお，分析はSPSS26とAMOS26を用いて行った。

結果

1.母への反抗についての因子分析

Table1　母への反抗についての因子パタン値

小包[注)]			1	2	*Mean*	*SD*
表出1	Q30	母に激怒することがあった。	**0.851**	-0.098	2.30	1.18
表出2	Q18	母にひどい言葉を浴びせたことがあった。	**0.847**	0.004	2.20	1.13
表出2	Q06	母に口答えをしたことがあった。	**0.804**	-0.249	3.28	0.95
表出2	Q12	母の言動に腹が立ち，周りのものに八つ当たりすることがあった。	**0.689**	0.012	2.40	1.07
表出1	Q24	母に物を投げたことがあった。	**0.586**	0.102	1.52	0.97
表出1	Q17	母のことを無視することがあった。	**0.539**	0.307	2.15	1.13
内面1	Q22	母を尊敬できなかった。	-0.172	**0.908**	1.69	0.84
内面2	Q10	母の嫌なところばかり目についていた。	-0.076	**0.775**	1.94	0.90
内面2	Q16	母を心の中で見下していた。	-0.019	**0.727**	1.68	0.91
内面2	Q29	母と会話することを避けていた。	0.117	**0.643**	1.67	0.88
内面1	Q04	母の考えは古いと思っていた。	-0.090	**0.493**	2.24	0.94
内面1	Q05	母を避けて，家に帰るのが遅くなったことがあった。	0.287	**0.474**	1.62	1.00
	Q11	母から注意された時，聞いていないふりをした。	0.392	0.379	2.29	0.97
	Q23	母を避けて，別の部屋に移動することがあった。	0.364	0.314	2.49	1.17
	Q28	母の言うことにおかしなことがあると許せなかった。	0.262	0.343	2.40	0.99
		因子間相関	0.661			

表出的反抗

内面的反抗

2.母の養育態度の因子分析

Table2　母の養育態度の因子パタン値

小包[注)]			1	2	3	*Mean*	*SD*	
受容1	Q19	母はいつも私のことを見守ってくれた。	**0.678**	0.042	0.017	3.42	0.62	受容
受容2	Q07	**母は私に色々な話をしてくれた。**	**0.666**	0.043	0.129	3.15	0.87	
受容2	Q25	母はどのようなことがあっても私の味方であった。	**0.620**	0.154	0.053	3.28	0.81	
受容1	Q01	**母は私のことをきちんと理解しようと努力してくれた。**	**0.562**	-0.022	-0.094	3.30	0.67	
受容1	Q13	**母は私の意見をよく聞いてくれた。**	**0.556**	0.258	0.001	3.08	0.84	
自律1	Q03	母は私に自分が責任を取れる範囲内でなら好きなことをやらせてくれた。	-0.066	**0.858**	-0.067	3.28	0.81	自律
自律2	Q09	母は私がやりたいと思ったことは何でもやらせてくれた。	0.182	**0.631**	-0.075	3.08	0.82	
自律2	Q15	母は何かを決めるときに私の意見を尊重してくれた。	0.273	**0.510**	-0.024	3.25	0.67	
自律1	Q21	母は私に自分のことは自分で決めることを求めた。	0.051	**0.487**	0.109	2.90	0.78	
	Q27	母は私の行きたい所ならどこへでも何も聞かずに行かせてくれた。	0.185	***0.219***	0.017	2.22	0.92	
統制1	Q14	母は私を母の思い通りにしようとした。	-0.046	-0.087	**0.717**	1.94	0.93	統制
統制2	Q20	母は私の行動を全て把握しようとした。	0.238	-0.051	**0.638**	2.34	1.02	
統制2	Q26	母は私の性格を改めさせようとした。	-0.308	0.274	**0.617**	2.09	1.00	
統制1	Q02	**母は私が口答えをすると腹を立てることが多かった。**	-0.238	0.071	**0.574**	2.78	1.04	
統制1	Q08	**母は規則やルールを守ることに厳しかった。**	0.360	-0.175	**0.506**	2.84	0.94	
因子間相関		第2因子	0.481					
		第3因子	-0.243	-0.351				

3.　青年の母親への態度についての因子分析

Table3　青年の母への態度の因子パタン値

小包[注)]			1	2	3	4	5	*Mean*	*SD*
情愛1	Q24	最近，母のありがたみを感じることがよくある。	**0.960**	0.102	−0.036	−0.133	−0.056	3.54	0.66
情愛2	Q14	母に対してこれからは親孝行をしたい。	**0.794**	0.104	−0.104	0.047	−0.008	3.63	0.67
情愛2	Q04	母をいたわってあげたい。	**0.762**	−0.068	−0.094	0.048	−0.077	3.50	0.64
情愛1	Q09	母に対して感謝の気持ちをもっている。	**0.722**	−0.072	0.119	−0.044	0.116	3.73	0.53
対立1	Q22	私の進路，生き方などのことで母と対立することがある。	0.159	**0.852**	0.197	−0.009	0.079	2.30	1.02
対立2	Q17	母を理解しようと思うのだが，つい反抗し，けんかになることが多い。	−0.039	**0.776**	−0.145	0.256	−0.287	2.12	1.04
対立2	Q12	私と母の言うことはいつも対立する。	0.135	**0.668**	0.144	−0.108	−0.122	1.87	0.75
対立1	Q02	私の意見や考え方が母に伝わらず，イライラすることがある。	−0.258	**0.632**	−0.237	0.215	0.096	2.78	1.04
対立1	Q07	母の価値観に疑問を持っている。	0.008	**0.560**	0.166	*−0.360*	0.123	2.10	0.94
従順1	Q23	私は母の言う通りに生きている。	−0.229	0.036	**0.759**	0.050	0.047	1.90	0.83
従順2	Q08	母にさからえないで，言う通りになってしまいやすい。	−0.054	0.141	**0.662**	0.152	−0.095	1.84	0.90
従順2	Q18	母の期待にそった生き方をしている。	0.009	0.148	**0.527**	0.176	0.101	2.41	0.87
従順1	Q13	母の言うことには素直に従っている。	0.089	−0.140	**0.470**	0.072	0.028	2.60	0.76
	Q20	母と私の人生は違う。	−0.110	0.252	***−0.332***	0.061	***0.313***	3.51	0.66
影響1	Q11	私の価値観には，母の価値観が反映している。	−0.098	0.115	0.130	**0.708**	−0.055	2.89	0.84
影響2	Q21	母によって私の人生観が深められた。	0.020	−0.198	0.007	**0.599**	0.135	2.95	0.80
	Q03	私の意見と母の意見が違う時，母の意見に左右される。	−0.035	0.276	0.176	**0.494**	−0.124	2.54	0.94
影響2	Q16	私が何かを決める際，母の意見は十分参考になると思う。	***0.371***	−0.114	0.048	**0.475**	−0.272	3.28	0.75
影響1	Q06	母は生き方の一つのモデルを私に示してくれたと思う。	0.272	0.100	0.212	**0.426**	0.209	3.12	0.88
	Q01	母によって私の視野が広がった。	0.047	−0.078	0.136	***0.376***	0.137	3.05	0.87
	Q19	私が今安心して生活できるのは，母の存在があるからだ。	*0.327*	−0.055	−0.136	***0.367***	0.096	3.57	0.73
一人1	Q25	母のことを一人の人間として客観的に見ている。	−0.092	−0.133	0.070	−0.068	**0.567**	3.15	0.81
一人2	Q10	私の生き方は母の生き方とは別の独自のものだ。	0.121	0.224	−0.260	−0.183	**0.503**	3.48	0.73
一人2	Q15	やっぱり母も一人の人間だと思うようになった。	0.109	−0.011	−0.095	0.279	**0.489**	3.46	0.57
一人1	Q05	母も一人の人間だと思って接している。	0.030	−0.163	0.191	0.195	**0.477**	3.52	0.63
		第2因子	−0.498						
		第3因子	−0.226	0.149					
	因子間相関	第4因子	0.579	−0.389	0.094				
		第5因子	0.357	−0.104	−0.187	0.252			

情愛的絆

対立

従順

ポジティブな影響

一人の人間(客観)

4.　第二反抗期経験と親の養育態度および現在の母—青年関係との関連

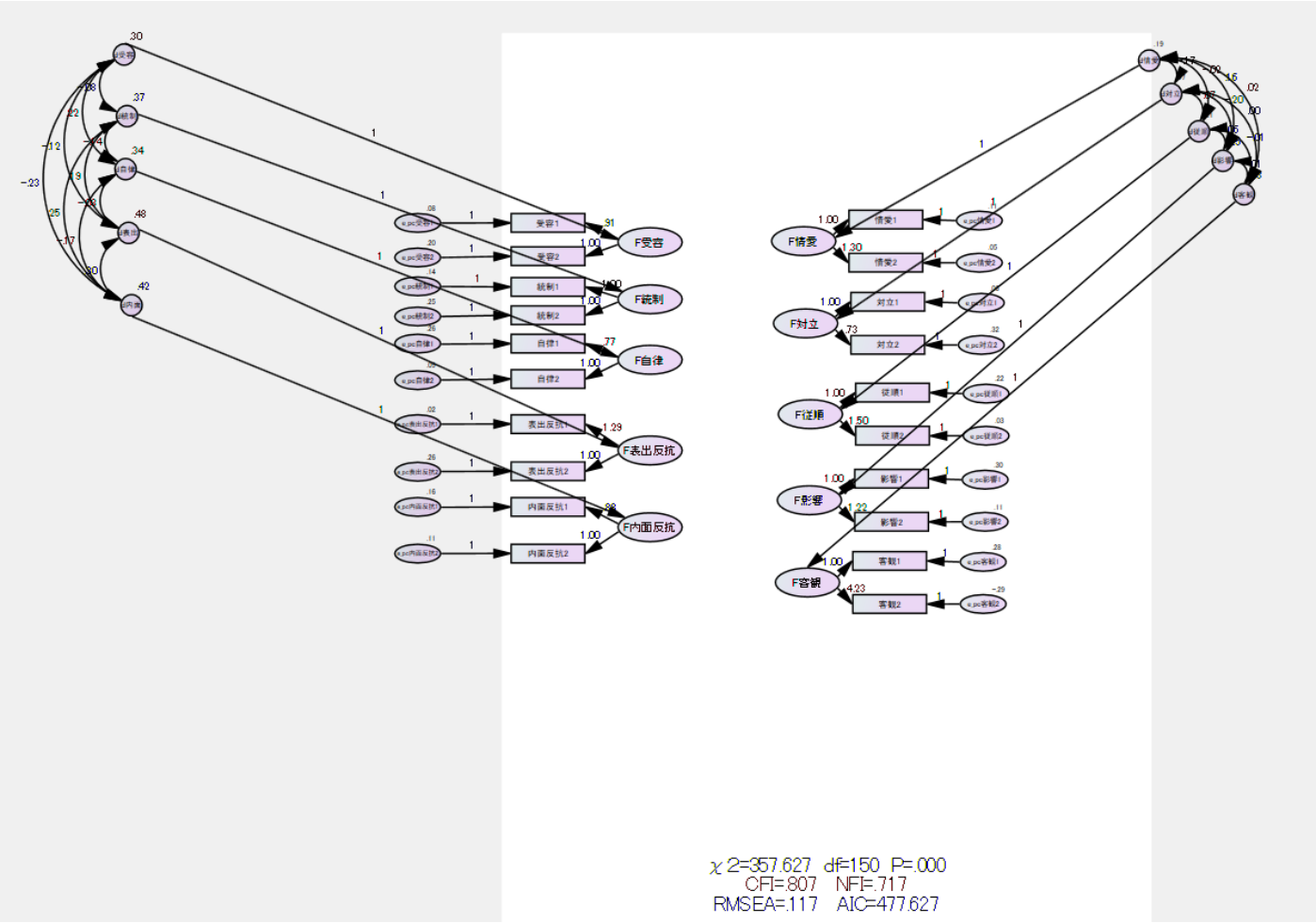

Figure 3　第二反抗経験と親の養育態度および母ー青年関係との関連図（出発モデル）

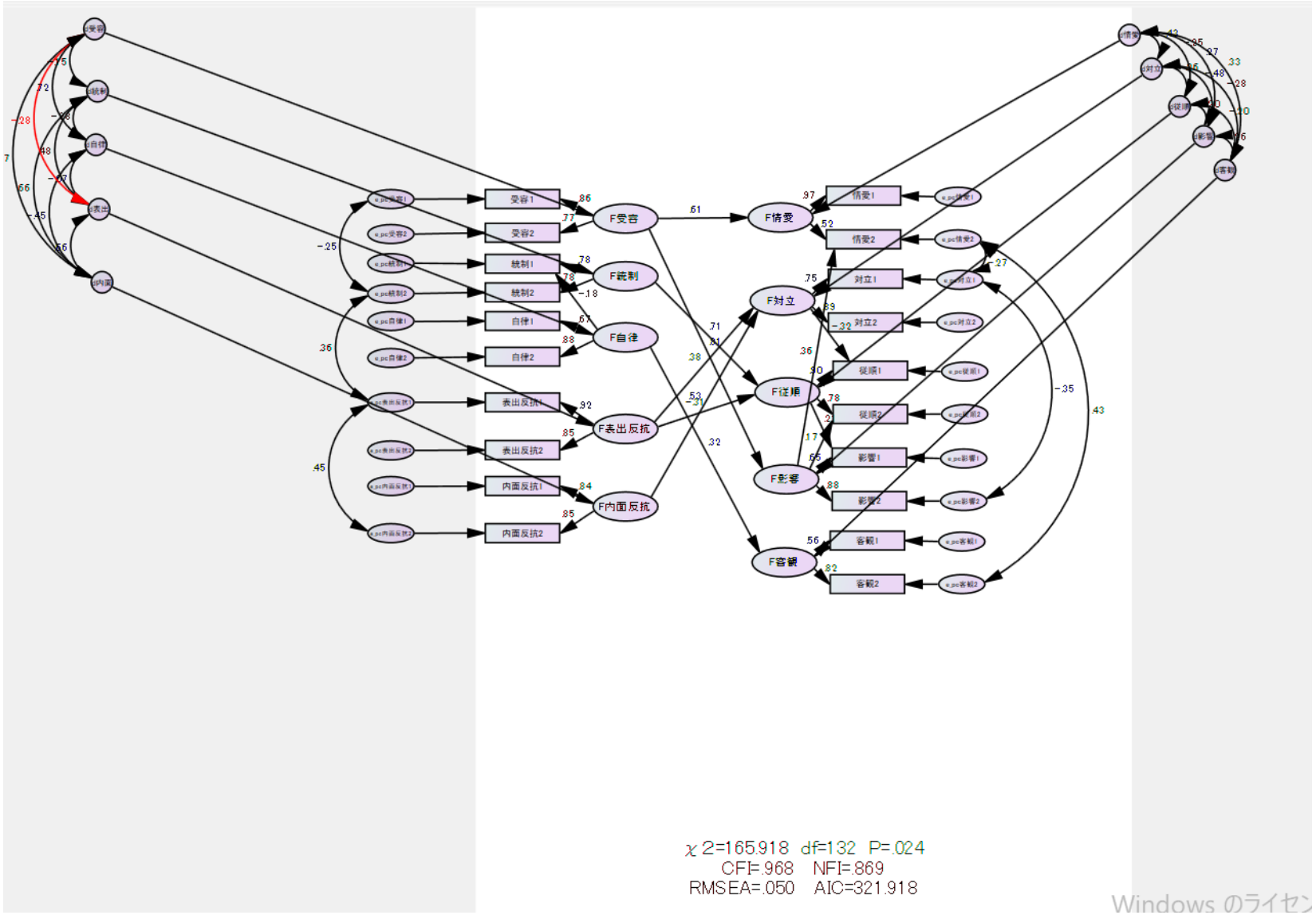

Figure 4　第二反抗経験と親の養育態度および母ー青年関係との関連図（最終モデル）

Table4　最終モデルの推定値

				非標準化推定値	標準誤差	標準化推定値	確率
構造モデル	F対立	<---	F内面反抗	0.503	0.118	0.527	***
	F対立	<---	F表出反抗	0.304	0.090	0.377	***
	F従順	<---	F統制	0.686	0.139	0.711	***
	F影響	<---	F受容	0.728	0.131	0.810	***
	F情愛	<---	F受容	0.589	0.100	0.608	***
	F客観	<---	F自律	0.177	0.085	0.325	*
	F従順	<---	F表出反抗	-0.252	0.105	-0.313	*
測定モデル	pcmean受容2	<---	F受容	1		0.767	
	pcmean受容1	<---	F受容	0.910	0.104	0.863	***
	pcmean統制2	<---	F統制	1		0.780	
	pcmean統制1	<---	F統制	0.915	0.130	0.776	***
	pcmean自律2	<---	F自律	1		0.882	
	pcmean自律1	<---	F自律	0.778	0.127	0.667	***
	pcmean表出反抗2	<---	F表出反抗	1		0.852	
	pcmean表出反抗1	<---	F表出反抗	1.125	0.109	0.917	***
	pcmean内面反抗2	<---	F内面反抗	1		0.849	
	pcmean内面反抗1	<---	F内面反抗	0.941	0.096	0.836	***
	pcmean情愛1	<---	F情愛	1		0.967	
	pcmean情愛2	<---	F情愛	0.597	0.262	0.519	*
	pcmean対立1	<---	F対立	1		0.746	
	pcmean対立2	<---	F対立	1.201	0.143	0.895	***
	pcmean従順1	<---	F従順	1		0.899	
	pcmean従順2	<---	F従順	0.946	0.146	0.785	***
	pcmean影響1	<---	F影響	1		0.649	
	pcmean影響2	<---	F影響	1.246	0.181	0.880	***
	pcmean客観1	<---	F客観	1		0.561	
	pcmean客観2	<---	F客観	1.339	0.473	0.819	**
	pcmean従順1	<---	F対立	-0.353	0.128	-0.317	**
	pcmean従順2	<---	F影響	0.252	0.133	0.172	†
	pcmean影響1	<---	F従順	0.260	0.110	0.205	*
	pcmean統制1	<---	F自律	-0.224	0.111	-0.179	*
	pcmean情愛2	<---	F影響	0.45	0.209	0.363	*

因子間共分散	d表出	<-->	d内面	0.299	0.065	0.662	***
	d内面	<-->	d自律	-0.160	0.046	-0.450	***
	d内面	<-->	d統制	0.251	0.057	0.665	***
	d内面	<-->	d受容	-0.221	0.049	-0.666	***
	d表出	<-->	d自律	-0.029	0.049	-0.068	*n.s.*
	d表出	<-->	d統制	0.216	0.062	0.483	***
	d表出	<-->	d受容	-0.110	0.047	-0.279	*
	d自律	<-->	d統制	-0.099	0.048	-0.281	*
	d自律	<-->	d受容	0.222	0.047	0.715	***
	d統制	<-->	d受容	-0.048	0.042	-0.146	*n.s.*
	d情愛	<-->	d対立	-0.060	0.022	-0.434	**
	d情愛	<-->	d従順	-0.048	0.027	-0.249	†
	d情愛	<-->	d影響	0.032	0.019	0.274	†
	d情愛	<-->	d客観	0.041	0.020	0.333	*
	d対立	<-->	d従順	0.040	0.029	0.259	*n.s.*
	d対立	<-->	d影響	-0.046	0.020	-0.483	*
	d対立	<-->	d客観	-0.028	0.018	-0.285	*n.s.*
	d従順	<-->	d影響	0.026	0.024	0.199	*n.s.*
	d従順	<-->	d客観	-0.027	0.022	-0.198	*n.s.*
	d影響	<-->	d客観	0.022	0.016	0.264	*n.s.*
独自性間共分散	e_pc統制2	<-->	e_pc表出反抗1	0.063	0.029	0.362	*
	e_pc表出反抗1	<-->	e_pc内面反抗2	0.062	0.025	0.449	*
	e_pc受容1	<-->	e_pc統制2	-0.036	0.020	-0.254	†
	e_pc情愛2	<-->	e_pc客観2	0.046	0.018	0.433	*
	e_pc情愛2	<-->	e_pc対立1	-0.051	0.021	-0.267	*
	e_pc対立1	<-->	e_pc影響2	-0.059	0.026	-0.345	*

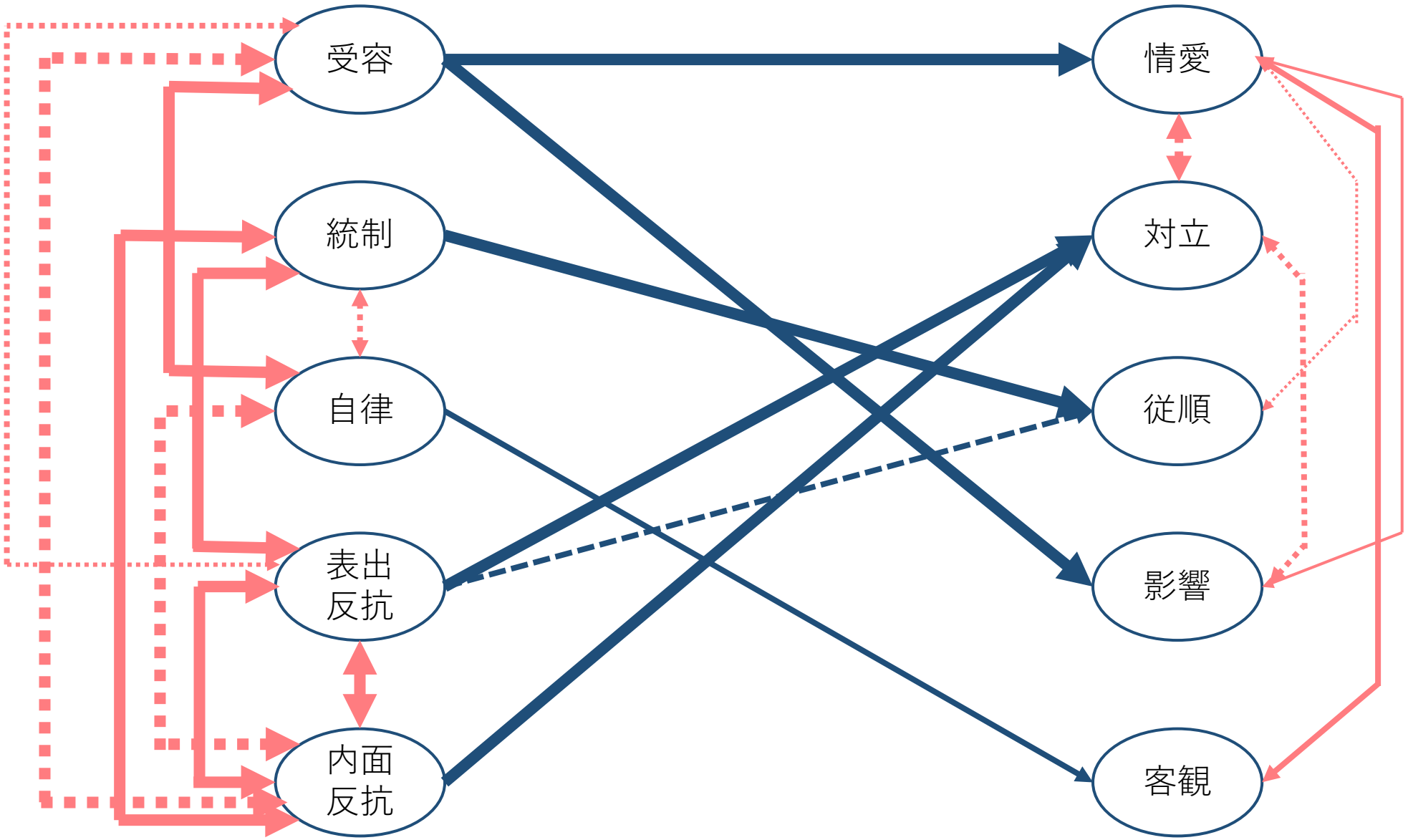

Figure5　第二反抗経験と母親の養育態度及び母ー青年関係の関連図

考察

本分析の結果，反抗の形態は表出的なものと内面的な反抗の二つの種類があることが確認された。

また現在の親ー青年関係については負荷する項目が若干異なっているが，これまでの研究と同じ因子が得られた。

母親の統制的な養育態度は子の反抗的な態度を引き起こし，そのことが母と子の対立的な関係を生み出すことが示唆された。

一方で，母親の受容的な養育態度は，子の反抗的な態度を抑制し，母との情愛的絆を強くすることが示唆された。

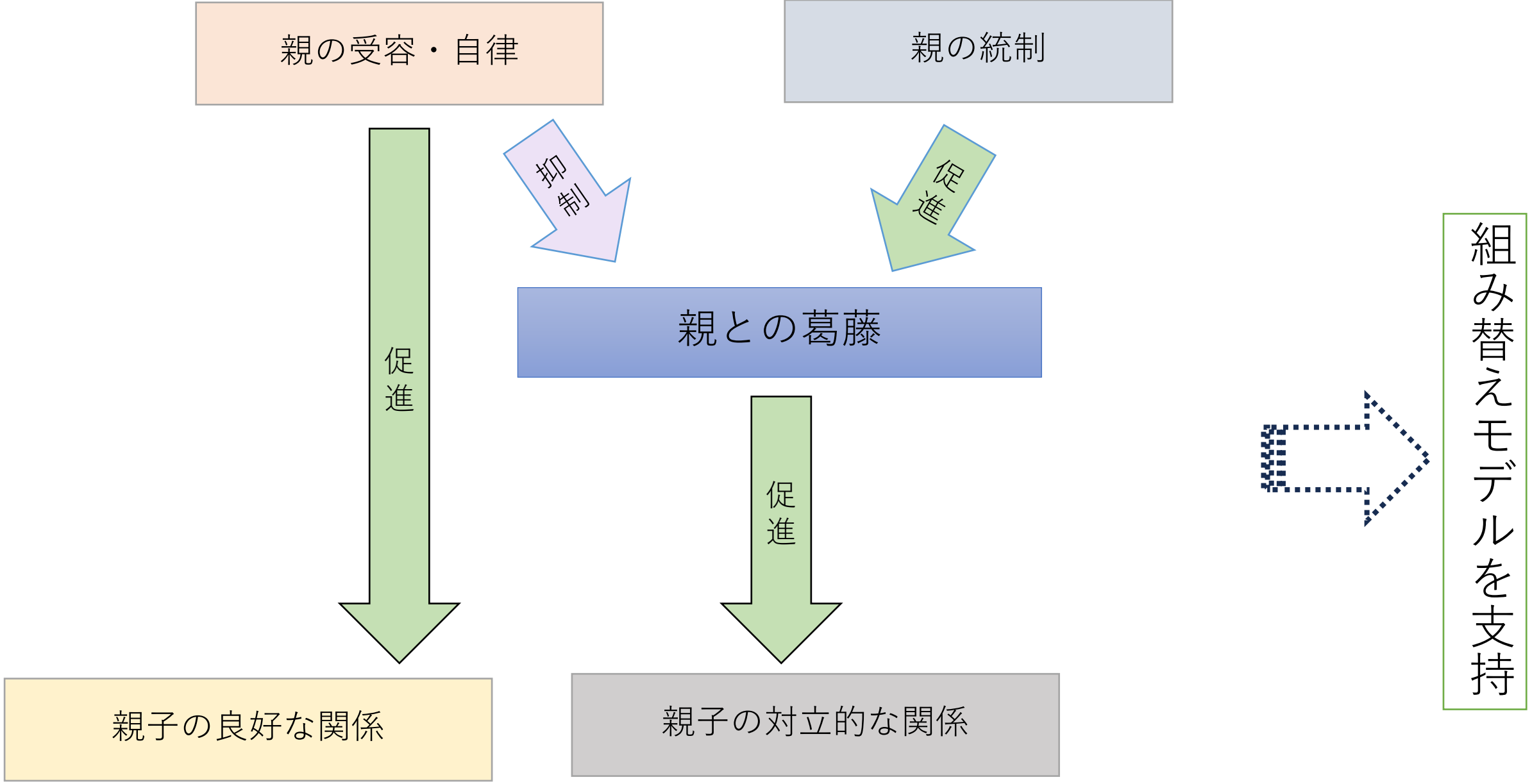

Figure6　親子の葛藤モデル

引用文献

江上園子・田中優子（2013）. 第二反抗期に対する認識と自我同一性との関連　愛媛大学教育学部紀要, **60**, 17-24.

藤田ミナ・岡本祐子 (2009). 青年期における母娘関係とアイデンティティとの関連　広島大学大学院心理臨床教育研究センター紀要, **8**, 121-132.

Hu, L., & Bentler, P.M. (1999). Cutoff criteria for fit indexes in covariance structure analysis: Conventional criteria versus new alternatives. *Structural Equation Modeling*, **6**, 1-55.

狩野 裕 (2002a). 構造方程式モデリングは，因子分析，分散分析，パス解析のすべてにとって代わるか？ 行動計量学, **29**, 138–159.

狩野 裕 (2002b). 再討論：誤差共分散の利用と特殊因子の役割 行動計量学, **29**, 182-197.

小高　恵（2000）．親一青年関係尺度の作成の試み　南大阪大学紀要, **3**, 87-96.

野村有輝(2014). 親子の情緒的関係性と実際の交流からみた反抗期についての一考察　神戸大学発達・臨床心理学研究, **13**, 32-37.

小澤一仁 (1998).　親への反抗　落合良行（編）　中学二年生の心理　大日本図書

清水和秋・三保紀裕・紺田広明・青木貴寛 (2014). SEM適合度指標と適合度の報告（1）―心理学研究と教育心理学研究を対象として―日本心理学会第78回大会発表論文集，521.

白井利明(1997). 青年心理学の観点からみた「第二反抗期」　心理科学, **19**, 9-24.

杉山 宙・長谷川孝治(2013). 第二反抗期尺度の作成および親の養育態度との関連　日本心理学会第77回大会発表論文集, 1054.

須崎暁世(2008). 現代の青年における第二反抗期　神戸大学発達科学部人間形成学科卒業論文（未刊行）

遠山孝司(2005). 回想的な方法による親と教師の威厳ある養育・指導態度尺度の作成　東海心理学研究, **1**, 21-29.辻岡美延・山本吉廣(1976). 親子関係診断尺度ＥＩＣＡの作成－因子的真実性の原理による項目分析－ 関西大学社会学部紀要, **7**, 1-14.

Mulaik, S. A. (2010). *Linear causal modeling with structural equations*. New York, NY: Chapman & Hall/CRC.